

1

次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。

- a. 静岡商店から商品 ¥900,000 を仕入れ、代金はさきに支払ってある内金 ¥180,000 を差し引き、残額は掛けとした。
- b. 定額資金前渡法を採用している長野商店の会計係は、庶務係に小口現金として ¥40,000 を前渡ししていたが、本日、当月分の支払高について、次のとおり報告を受けたので、ただちに小切手を振り出して補給した。
- 通 信 費 ¥15,000 交 通 費 ¥16,000 消耗品費 ¥4,000 雑 費 ¥3,000
- c. 事務用のパーソナルコンピュータ ¥460,000 を買い入れ、代金は現金で支払った。
- d. 従業員の出張にさいし、旅費の概算額として ¥70,000 を仮払いしていたが、本日、従業員が帰店して旅費の精算をおこない、残額 ¥5,000 を現金で受け取った。
- e. 得意先南北商店が倒産し、同店に対する売掛金 ¥60,000 を貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が ¥68,000 ある。
- f. 売買目的で保有している愛知商事株式会社の株式10株（1株の帳簿価額 ¥80,000）を1株につき ¥78,000 で売却し、代金は現金で受け取った。

2

石川商店の下記の取引について、

- (1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の売掛金勘定に転記しなさい。
- (2) 売上帳・売掛金元帳に記入して、締め切りなさい。

ただし、i 商品に関する勘定は3分法によること。

ii 仕訳帳の小書きは省略する。

iii 元丁欄には、売掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取 引

1/月10日 新潟商店から次の商品を仕入れ、代金の一部については、下記の小切手#5を振り出して支払い、残額は掛けとした。

A 品	500個	@¥380	¥190,000
B 品	800〃	〃 〃 200	¥160,000

HS0005	小切手	金 沢 1801 0149-018
支払地	石川県金沢市泉本町6-105 株式会社 全商銀行石川支店	
金 額	¥120,000	
上記の金額をこの小切手と引き替えに 持参人へお支払いください		
平成○年1月10日	石川商店	石川
振出地 石川県金沢市	振出人 石川一郎	

1/6日 福井商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品	400個	@¥600	¥240,000
B 品	700〃	〃 〃 300	¥210,000

1/8日 福井商店に売り渡した上記商品の一部について、次のとおり値引きをおこなった。なお、この代金は売掛金から差し引くことにした。

B 品	40個	@¥50	¥2,000
-----	-----	------	--------

2/日 富山商店に次の商品を売り渡し、代金のうち ¥50,000 は現金で受け取り、残額は掛けとした。

A 品	300個	@¥600	¥180,000
-----	------	-------	----------

25日 富山商店から売掛金の一部 ¥170,000 を同店振り出しの小切手#7で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。

3

山梨商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空白のままにしておくこと。

取引

6月/8日 甲府商店に借用証書によって貸し付けていた ¥450,000 を現金で受け取った。(伝票番号 No. 27)

〃 日 全商銀行に定期預金として小切手 #10 ¥300,000 を振り出して預け入れた。(伝票番号 No. 42)

4

次の各問いに答えなさい。

- (1) 東京商店の受取手形勘定と受取手形記入帳は、下記のとおりである。よって、
- a. 2月7日に回収した売掛金は、次のうちどちらの商店に対するものか、番号を記入しなさい。
1. 文京商店 2. 豊島商店
- b. 受取手形勘定の(ア)の金額を求めなさい。

受取手形							
1/6	売 上	250,000	2/13	当座預金 (ア)			
13	売 上	280,000	〃	仕 入 ()			
2/7	売 掛 金	700,000					

受取手形記入帳

平成 〇年	摘 要	金 額	手形 種類	手形 番号	支 払 人	振出人または裏書人	振出日	満期日	支払場所	て ん 末		
										月	日	摘 要
1 6	売 上	250,000	約手	1	新宿商店	新宿商店	1 6	3 6	全商銀行新宿支店	2	13	裏書譲渡
	13 売 上	280,000	約手	5	中央商店	中央商店	1 13	2 13	全商銀行中央支店	2	13	入 金
2 7	売 掛 金	700,000	為手	8	文京商店	豊島商店	2 7	4 7	全商銀行文京支店			

- (2) 三重商店の下記の資料によって、次の金額を計算しなさい。
- a. 期間中の費用総額 b. 期末の資産総額

資 料

i 期首の資産および負債

現 金 ¥720,000 当 座 預 金 ¥1,710,000 商 品 ¥350,000
備 品 520,000 買 掛 金 580,000 借 入 金 230,000

ii 期末の負債総額 ¥ 970,000

iii 期間中の収益総額 ¥6,900,000

iv 当期純利益 ¥ 380,000

- (3) 次の各文の のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。
- a. 簿記では、一定期間ごとに総勘定元帳の各勘定口座の記録を計算・整理し、諸帳簿を締め切り、損益計算書や貸借対照表を作成する。この一連の手続きを という。
- b. 仕訳帳から総勘定元帳への転記が、正しくおこなわれていたかどうかを確かめるために、総勘定元帳の各勘定の借方合計金額と貸方合計金額を集めて作成する表を という。

1. 取 引 2. 合計試算表 3. 残高試算表 4. 決 算 5. 転 記

5

岐阜商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳勘定残高と決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 決算整理仕訳を示しなさい。
- (2) 貸倒引当金勘定と受取利息勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 損益計算書を完成しなさい。

元帳勘定残高

現 金	¥ 314,000	当 座 預 金	¥1,359,000	売 掛 金	¥2,600,000
貸 倒 引 当 金	20,000	繰 越 商 品	800,000	貸 付 金	500,000
備 品	420,000	支 払 手 形	750,000	買 掛 金	1,932,000
前 受 金	90,000	資 本 金	2,800,000	売 上	7,900,000
受 取 利 息	15,000	仕 入	5,174,000	給 料	1,620,000
支 払 家 賃	480,000	水 道 光 熱 費	172,000	消 耗 品 費	43,000
雑 費	28,000	現 金 過 不 足	3,000		
		(貸方残高)			

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥760,000
- b. 貸倒引当金 売掛金残高の2%とする。ただし、差額を計上する方法によること。
- c. 備品減価償却高 取得原価 ¥560,000 残存価額は零 (0) 耐用年数は8年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

$$\text{定額法による年間の減価償却費} = \frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$$

- d. 現金過不足勘定の ¥3,000 は雑益とする。

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2

(1)

帳 訳 仕

1

[illegible]

帳 元 定 勘 総

4

[illegible]

(2) (注意) 売上帳・売掛金元帳は締め切ること。

帳 上 売

1

[illegible]

帳元金掛売

1

[illegible]

富 山 商 店

2

[illegible]

試 験 場 校

受 験 番 号

3 級の 1 得点

3

入金伝票		No. _____	
平成○年 月 日			
科目	入金先	殿	
摘要	金額		
合計			

出金伝票		No. _____	
平成○年 月 日			
科目	支払先	殿	
摘要	金額		
合計			

振替伝票				No. _____			
平成○年 月 日							
勘定科目	借方	勘定科目	貸方				
合計		合計					
摘要							

4

(1)	a	b	(2)	a	b	(3)	ア	イ
		¥		¥	¥			

5

(1)	借方	貸方
a		
b		
c		
d		

(2) (注意) i 受取利息勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

貸倒引当金		4
2/14 売掛金 30,000	1/1 前期繰越 50,000	

受取利息	13
	15,000

(3) 岐阜商店 損益計算書 平成○年/月/日から平成○年/2月3/日まで

費用	金額	収益	金額
売上原価		売上高	
給料		受取利息	
()		()	
()			
支払家賃			
水道光熱費			
消耗品費			
雑費			
()			

試験場校	受験番号

3級の2得点

総得点

1

	借 方	貸 方
a	仕 入 900,000	前 払 金 (または前渡金) 180,000 買 掛 金 720,000
b	通 信 費 15,000 交 通 費 16,000 雑 品 費 4,000 小 口 現 金 3,000 38,000 (または 通 信 費 15,000 交 通 費 16,000 雑 品 費 4,000 3,000)	小 口 現 金 38,000 当 座 預 金 38,000 当 座 預 金 38,000
c	備 品 460,000	現 金 460,000
d	旅 費 65,000 現 金 5,000	仮 払 金 70,000
e	貸 倒 引 当 金 60,000	売 掛 金 60,000
f	現 金 780,000 有 価 証 券 売 却 損 20,000	有 価 証 券 (または売買目的有価証券) 800,000

2 (1)

仕 訳 帳 1				
平成 〇年	摘 要	平 子	借 方	貸 方
/ /	前期繰越高	✓	4,260,000	4,260,000
10	(仕 入) 諸 口		350,000	
	(当座預金)			120,000
	(買掛金)			230,000
16	(売掛金)	4	450,000	
	(売 上)			450,000
18	(売 上)		2,000	
	(売掛金)	4		2,000
21	諸 口 (売 上)			180,000
	(現 金)		50,000	
	(売掛金)	4	130,000	
25	(当座預金)		170,000	
	(売掛金)	4		170,000

総 勘 定 元 帳 4							
売 掛 金							
平成 〇年	摘 要	平 子	借 方	平成 〇年	摘 要	平 子	貸 方
/ /	前期繰越	✓	380,000	1 18	売 上	1	2,000
16	売 上	1	450,000	25	当座預金	〃	170,000
21	売 上	〃	130,000				

(2) (注意) 売上帳・売掛金元帳は締め切ること。

売 上 帳 1			
平成 〇年	摘 要	内 訳	金 額
1 16	福井商店 掛け		
	A 品 400個 @¥600	240,000	
	B 品 700〃 〃 〃 300	210,000	450,000
18	福井商店 掛け値引き		
	B 品 40個 @¥ 50		2,000
21	富山商店 現金・掛け		
	A 品 300個 @¥600		180,000
31	総売上高		630,000
〃	売上値引高		2,000
	純売上高		628,000

売 掛 金 元 帳

福 井 商 店 1					
平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
/ /	前月繰越	120,000		借	120,000
16	売り上げ	450,000		〃	570,000
18	売上値引		2,000	〃	568,000
31	次月繰越		568,000		
		570,000	570,000		

富 山 商 店 2					
平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
/ /	前月繰越	260,000		借	260,000
21	売り上げ	130,000		〃	390,000
25	回収		170,000	〃	220,000
31	次月繰越		220,000		
		390,000	390,000		

3

入金伝票				No. 27			
平成○年6月18日							
科目	貸付金	入金先	甲府商店殿				
摘要			金額				
借用証書による貸付金回収			450000				
合計			450000				

出金伝票				No. _____			
平成○年 月 日							
科目		支払先	殿				
摘要			金額				
合計							

振 替 伝 票														No. 42							
平成○年 6 月 18 日																					
勘 定 科 目				借 方				勘 定 科 目				貸 方									
定 期 預 金					3	0	0	0	0	0	当 座 預 金					3	0	0	0	0	0
合 計					3	0	0	0	0	0	合 計					3	0	0	0	0	0
摘要		全商銀行に定期預金預け入れ 小切手#10振り出し																			

4

(1)	a	b	(2)	a	b	(3)	ア	イ
	2	¥ 280,000		¥ 6,520,000	¥ 3,840,000		4	2

5

借方		貸方	
a	仕入 800,000	繰越商品 800,000	
	繰越商品 760,000	仕入 760,000	
b	貸倒償却 32,000	貸倒引当金 32,000	
c	減価償却費 70,000	備品 70,000	
d	現金過不足 3,000	雑益 3,000	

- (2) (注意) i 受取利息勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

貸倒引当金				4
2/14 売掛金	30,000	1/1 前期繰越	50,000	
12/31 次期繰越	52,000	12/31 貸倒償却	32,000	
	82,000		82,000	

受取利息				13
12/31 損益	15,000		15,000	

- (3) 岐阜商店 損益計算書 平成○年/月/日から平成○年/2月3/日まで

費用	金額	収益	金額
売上原価	5,214,000	売上高	7,900,000
給料	1,620,000	受取利息	15,000
(貸倒償却)	32,000	(雑益)	3,000
(減価償却費)	70,000		
支払家賃	480,000		
水道光熱費	172,000		
消耗品費	43,000		
雑費	28,000		
(当期純利益)	259,000		
	7,918,000		7,918,000

(貸倒償却は、貸倒引当金繰入でもよい。)